第４回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in しらたか

【と　き】平成２２年７月２７日（火）　１８：３０～２０：３０

【ところ】「あゆーむ」

【参加者】参加者総勢約１７０名

【１　白鷹町の医療（医師確保の将来の見通し）について】
【２　荒砥高校の単独普通高校としての存続について】
【３　つや姫の作付け拡大について】
【４　縁故米によるつや姫のＰＲについて】
【５　企業の求める人材育成について】
【６　結婚難対策について】
【７　住宅建設、特にリフォームに対する支援（参考　秋田県住宅リフォーム緊急支援事業）について】
【８　商工会への助成について】
【９　荒砥橋の架け替えについて】
【10　農業の６次産業化（総合産業化）に向けた支援について】
【11　知事の写真を使ったＰＲについて】
【12　障がい者の工賃倍増計画について】
【13　障害者自立支援法見直しに向けた国への提案について（自立支援費の日額支給及び職員の配置基準について）】
【14　山形県を支える若者の研修について】

【１　白鷹町の医療（医師確保の将来の見通し）について】

☆女性の会に所属しております。よろしくお願いします。

白鷹町の医療について質問させていただきたいと思います。白鷹町の町立病院は、町の医療について、本当に大変重要な役割を担ってきていると思います。私も白鷹町立病院の運営委員を10年程やってきました。それで、平成16年に産婦人科がなくなるというふうな事を言われまして、その時にだいぶ委員の方と話し合ったりしたのですけれど、院長先生と町長さんには関係機関に一生懸命働きかけていただきました。それでも残念なことに16年の４月から、結局、産科がなくなってしまい、婦人科だけ曜日指定の形で現在も行われているんです。それで産科医がいないということは、今非常に私達にとって大事な少子化とか、それから将来の労働力とか、それから教育、地域の活性化などに非常に大きな影響を与えるのでないかなと非常に、不安に思ってきている訳です。現在、お産する方は、山形あるいは寒河江、公

立置賜などの病院で対応しておられるようですが、実際にお産が始まって、家で産まれるな、というふうになってから、県知事さんは女性だから、その辺は、お母さんでもあるので、大変よく分かると思うんですけど、お産が始まってから、その病院に行くまで40分から１時間位、実際にかかっている訳です。そうすると、「途中何かあったらどうしようかな。」もちろん産む方は心配ですよね。ご家族の方もそれに付き添っていかなければならないので非常に心配です。「そういう時に救急車を使ってだめなんですか。」なんて質問したこともあるんですけれど、「あまり異状がなかったら、普通にタクシーとかいろいろな方法で行っていただけませんか。」というふうに言われたことがあるんです。それで実際に医師を志す、何か奨学金制度なんかも山形県でなされているという事も聞いておりますが、現在、医療の確保のためにどのような方策を考えられておられるのかなという事。それから、これはなかなかすぐにという事も大変な事があると思いますので、将来の見通しをどのように考えておられるのかという事、２点についてお聞きしたいと思います。以上です。

（司会）
それでは、お願いいたします。

（知事）
はい、どうもありがとうございます。本当に難しい問題をご質問いただいたと思っております。医師の確保ということは、県民の安心・安全な生活の上で本当に大事なことだと思っておりまして、ただ本当に産科と小児科のお医者さんが不足しておりまして、これは本県だけじゃなくて、全国的であり、実は本当に困っている状況にあります。おっしゃるように、県としての対策は、やれるだけのことはやっているんですけれども、医師の絶対数が足りないということがありまして、町立病院もそういう状況で産科だけ診療できなくなったのかなというふうに思っております。医師の確保ということでは、今まさにおっしゃってくださいましたけれども、医師修学資金の貸付制度とか、寄付講座ということを今年度から山形大学医学部に作ってもらいまして、県でお金を出して地域医療に携わってくださる方々の育成をお願いしております。ただ、今始まったばかりで、医師になるのには６年はかかる訳ですから、しばらく時間がかかるというのが正直なところですので、当分はとにかく勤務医である産科・婦人科のお医者さん、小児科のお医者さんの勤務環境を、待遇改善もやりながら、働きやすい環境を整えていかなければならないんじゃないかなというふうに思っているところです。

また、今年の４月に、県立中央病院に「総合周産期母子医療センター」というものを設置いたしました。そして今年の秋頃には「周産期ドクターカー」というものを、やはり県立病院ですけれども配置する予定でおります。それによって、赤ちゃんを乗せながら、お医者さんと赤ちゃんでその病院までずっと診察・治療しながら運ぶと言いますかね、そういう体制の車を配置する予定でございます。できる限りのことをやっていくつもりではいるんですけれども、本当にもうちょっと時間がかかるというのが正直なところで、今しばらくお待ちいただきたいなと思っているところです。やはりそれまでの間、地域のお医者さんと病院の連携というものをさらに強化しまして、また病院と消防機関なども、やはり救急車を持っていますから、そういったこともさらに連携を強化して、できるだけ安心して子どもを産み育てられる環境にするように取組んでいきたいというふうに思っているところでございます。総合支庁の方で置賜の事情について補足お願いします。

（置賜保健所所長）
置賜保健所所長です。知事のお話に若干、置賜の事情ということで追加させていただきたいと思います。ただ今ご質問いただいた部分、知事も私も女性ということで、大変大きな課題だなというふうに受け止めております。それで、周産期のことを考える場合に、大きく二

つに分けられるのかなと思うのですけれども、ご質問ありましたように緊急時のことが一つ。それから毎回毎回定期検診に行くというご負担ですね。大きなお腹を抱えて山を越えてというふうなご負担はかなりかなというふうに思うんですが、まず１点目の救急に関しましては、先ほど知事が県立中央病院のそういう体制ということ、ございましたけれども、山形県のほうで周産期の医療の協議会、私も委員にさせていただいておりますが、そういう協議の場で緊急時、消防も含めて医療機関でどういうルールで妊婦さんを搬送するか、お子様も含めて搬送するか、お連れするかという、そういうルールづくりを去年の段階である程度こういう連絡の紙を、連絡のメモですね。こういうことを書き込もうと、もう出来上がっています。また、今年度は県全体で周産期の医療計画の策定を進めるという中に、救急医療を大きく盛り込むということがございます。合わせて置賜の事情なんですが、妊婦さんがもし家で分娩が始まってしまったら、救急でどういうふうに搬送するかということを、保健所の方で救急医療対策協議会ということがございまして、昨年度のうちにルール作りをしました。基本的にはかかりつけ医に搬送するというふうなルールで、それはたとえば山形の市内であってもこちらから搬送していただく。ですから、先ほどの質問のように、分娩が始まって何か出血多量だなんて言う時には、当然大至急、救急を呼んでいただければなというふうに考えます。その分の研修も県と一体となって、県本庁が主導なんですけれども、救急隊の研修も進めるということも決まっていますので、そこもご安心いただければなと。あとは、通常の分娩の定期検診ですね。この部分に関しましては、昨年度から始まっているんですが、新聞でご覧いただいているかと思うんですけれども、「地域医療再生計画」と言いまして、国から25億円置賜に、県で50億円なんですけれども、周産期医療の課題を中心にということで、お金を頂戴して、管内には分娩可能な産婦人科は診療所を含めて６ヵ所しかないんですけれども、そこの医療連携を進めます。また、連携を進める中で、分娩ができる病院は今、置賜総合病院と米沢市立病院しかありませんが、そこだけでなく、たとえば身近な町立病院でも可能であれば検診はそこで受けていただいて、その情報を妊婦さんの了解を取りながら分娩を受け持つ２つの病院さんと常にインターネット等のＩＴを使って、患者さんが移動しなくても、その情報を共有できるような、そういう仕組みを作っていこうと、去年から始めているんですが、５年がかりで考えています。

最後に、長くなって申し訳ありません。今現在、まず救急でと申し上げましたが、やはりかかりつけ医の先生とそのお一人お一人の妊婦さんが、自分の今の状態を細やかにコミュニケーションをとっていただいて、少しでもご心配であれば、その医療機関に早目にご相談いただくという形も大事なのかな、というふうに思っています。できるところからなんですが、どうかよろしくお願いします。

（司会）

ありがとうございました。それでは、他にご発言のある方挙手をお願いします。

【２　荒砥高校の単独普通高校としての存続について】

☆荒砥高等学校同窓会のものです。よろしくお願いします。

私の方から荒砥高等学校の存続について、知事さんにお願いをしたいと思います。荒砥高等学校は、昭和23年に設立されまして、ちょうど今年が61年目の歴史ある高等学校であります。本町における最高学府として同窓生は8,670名の有能な人材を輩出しております。教育立町の基本をなしてきました町づくりに、多大なる影響を与えていると共に企業誘致や企業の成長に貢献しており、白鷹町の精神的な柱となっております。また主要な地域の交通機関である、フラワー長井線の利用拡大や地元商店からの商品購入等、地域づくりや地域経済に大きく貢献をしております。これらを踏まえ、白鷹町では荒砥高校の入学者を確保するために入学費用を援助する「荒砥高校新入生応援プロジェクト」を実施して支援しております。また、町民の方々も「荒砥高校まなびサポーター」として自分の得意な分野を生かして支援をしております。先般、西置賜地区の県立高校の再編整備について、検討委員会から報告書

が提出され、内容は２校案と３校案の二つの統合案と合わせてキャンパス制が提示されております。これから県教育委員会で具体的な実施計画を策定されると思いますが、生徒の状況に加え、地域の活性化への影響なども十分踏まえて是非荒砥高等学校を単独普通高校として存続していただきたく、荒砥高校の存続は町民の総意でありますので、知事さんよろしくお願いをしたいと思います。

（司会）
　それでは、知事よろしくお願いします。

（知事）
　はい、どうもありがとうございます。荒砥高校の存続というのは、確か選挙の時にも伺いましたし、その後もいろいろな所でお話を聞いているところです。学校の存続というのは、本当にその地域にとって大変重要な問題なんですけれども、いかんせん少子化というのがあって、あるいはその地域の子どもが入らない、別の地域の所へ入学したりですね、そのような関係もあって、ここ西置賜地区内にある県立高校は、近年ずっと入学者数が定員に満たない状況が見られておりまして、今後ともそういう状況が表れるんだろうというふうに思っております。ただ本当に白鷹町さんは頑張っておられまして、その「入学助成」ということで制服代や通学費を援助・助成するということをやっておられまして、画期的な事だなと思って私は見ておりました。私の考えはですね。自分がへき地で育ったということもあるんですけれども、数ですべてを切り捨てるというのはいかがなものかということは言っているんです。学校というのはやっぱり今おっしゃったように、町や村のシンボル的な存在と言いますか、精神的な柱とおっしゃいましたけれども、非常に大事なものです。キリスト教の国にあっては教会のような存在と言いますかね、本当にシンボリックな存在だなと思っています。ただ教育者に言わせますと、あまり人数が少ない中で子どもの、生徒の教育をすると、コストがかかる事はもちろんそうなんだけども、活力という面から、大勢の中で生活していく時に大変心配だという声も聞かれるところであります。今ご紹介あったように、「西置賜地区における高校教育のあり方」というのが検討されて、その報告書が出たわけですけれども、３校への再編案と、２校への再編案が示されておりまして、３校案については、そのうち１校が特色ごとに２つの校舎に分かれる、キャンパス制も考えられるとしております。単独で維持できれば一番よろしいんですけれども、もしそうでなくてもキャンパス制というようなことで、ある時は一緒になって活動し、また普段はそれぞれの校舎で授業を受けるというような、そういうキャンパス制という柔軟なあり方も県の教育委員会で考えついたと言ったらおかしいですけども……。それまではずっととにかく数で切ってきたんですよね。でも今それをちょっと考え直す、見直すべきでないかというようなことを言っておりまして、そういうキャンパス制というような、非常に柔軟な考え方も出てきたわけでございます。是非そういうことも採り入れながら、小規模校も含めて教育環境を確保する再編整備ということを地域の皆さん方の声をよくお聞きしながら進めてもらいたいと、教育委員会は独立行政委員会な訳ですから、私もその委員になっていた時期があるんですけれども、独立行政委員会としてきちんと考えて進めてもらいたいというふうに私は言っているところですので、ご理解いただければありがたいと思います。

（司会）
　ありがとうございました。それでは他にご質問・ご意見のある方。

【３　つや姫の作付け拡大について】
【４　縁故米によるつや姫のＰＲについて】
　☆農業をやっています。知事さんには「つや姫」についてご質問させていただきたいと思います。「つや姫」については、私、昨年、今年と作っておりまして、昨年作ったものは試

験栽培だったんですけれども、少し自家用ということで食べまして大変おいしい米で、「これならば」というふうな農家としても思いがある訳ですけれども、今の県の方針は、まず「ブランド化」というようなことで、一部の県で認可した農家しか作れないというようなことになっている訳です。これはお聞きしますと23年度もそのような方向性でいくというような今の考えだということなんですけれども、私は山形おきたま農協の役員もしていまして、３市５町組合員座談会というものに出席する立場にあるんですけれども、そこでその県の基準になかなかかからない農家の方も「つや姫」を作ってみたい、と。やはり農家はいい米が出たら真っ先に作って食べてみたい、これはやっぱり農家をやっている人の思いだと思います。ただそれがなかなか今の県のブランド化戦略の中でできないというのが事実だと思いますけれども、その農家の方々にこのブランド化戦略の後、たとえば「もっと裾野を広げて作れますよ」とか、そういう指針を、県の方で出していただければ納得していただけるのかなと。あと、秋の新米の季節になりますと、全国各地に縁故米という形で米が親戚とか子どもなんかに当地区からいくと思います。それが「つや姫」なんかを利用すれば県で何千万も宣伝費をかけないで、素晴らしい宣伝ができるのかなと。それだけ素晴らしい米だと思っておりますので、その農家のそういう新しいものを作ってみたいという思いも県の会議でくんでいただきまして、今後そういうことをメッセージとして農家に伝えていただけたら、農家の方々も意欲を出していけると思いますのでよろしくお願いします。

（司会）
知事、お願いいたします。

（知事）
はい、どうもありがとうございます。「つや姫」は昨年先行販売いたしまして、大変評価が高かったです。おいしいとおっしゃっていただき、大変私も嬉しく思っております。山形県が10年以上かけて開発して育てたお米でございまして、食味計で測っても魚沼産コシヒカリより美味しいというふうに、つまり日本一美味しい米ということになります。それをやはりブランド化しない手はないと言いますか、お米って今、聞きますと高いのと安いのは売れるけれども、中間だと大変厳しいというふうに聞いていますので、ブランド化することがとても大事だと思っております。選挙の時から全県内回りましたけれども、「『はえぬき』の失敗をするなよ。」と言われたんですね。「はえぬき」は当初県内だけで作って県外には作らせない、というふうにやっちゃったものですから、全国に回らなかったらしいんですよ、流通する量が少なくて。それで名前を知ってもらえなくて、また覚えにくい名前でもあったんじゃないかなと思いますけれども。いろいろあってブランドを確立できなかった。美味しさは本当に美味しいお米なんです。「魚沼産コシヒカリ」と「はえぬき」、この二つだけが、16年間「特Ａ」の評価を貰っているすごい米なんですけれども、安いんですよ。ブランド米にならなかったばっかりに。「はえぬき」を作っている方々は本当に安くしか売れないものですから、農家の皆さん大変だというふうに聞いていました。それで、「つや姫」というものを昨年出した訳なんですが、そのことを教訓にしまして、県外にも作っていただく方向で進めております。最も種籾がそんなにないので一気にドッとは無理なんですけれどもね。今年は宮城県で栽培しています。ほんの少しだと聞いていますが。それから、大分県でも試験栽培しているということであります。この間福井県にさくらんぼを売りに行ってきましたけれども、福井県の試験場でも育ててくれていました。「山形県のお米よろしく。」と、私頼んできたんですけれどもね。去年が300tでしたが、今年は１万1,000ｔと聞いていまして、今年・来年は同じ位の量というふうに聞いています。ある程度作るけど、それ以上たくさんは、今年・来年は控えて、「おいしい米だ」というブランド米としての確立を目指すものですから、おっしゃるようにたくさんの農家の方々に作ってはもらっていないんです。栽培適地マップというのを作りまして、その中で特別栽培・有機栽培で作ってくださる農家の方にお願いしている状況です。私も、今年も田植えをしましたけども、順調に育ってくれればい

いなと思っておりますが、今のところ順調に育っています。秋の本格デビューに向けていろいろ担当の方で、トップセールスとかね、企画を練っているところです。希望は皆、作りたいと言っているんですよね。私もいろんな方から言われました。すぐはお約束はできないんですけれども、まずはその「ブランド確立」したいと思っておりますので、その後まで絶対作るなというようなことは、県は言わないというふうに思っております。ただ、本当に申し訳ないのですが、まずは品質もしっかりチェックさせてもらって、食味計で測るんですけれども、ある程度以上の品質、しっかりしたものを出荷して、それでブランドを確立したいと思っています。ですから将来的にも絶対作らせないというような方向ではないということで、メッセージをいつの時点で出せるか、ちょっと持ち帰って担当者と相談してみたいと思います。

それから、ご提案なのですが、まさしく私も全く同じ考えでして、県内の皆さん、去年の先行販売で95％の方々が「つや姫」という名前を知っていただいた模様です。県外では３割という計算上は出たけど、それは知っている人に聞いたからだと思います。１割もいっていないんじゃないかと思っています。県内で「つや姫」の名前を知っていて、美味しさも知っていて、その方々にお願いするのが一番のやはり宣伝だというふうに私も言っているところです。もちろん県外での宣伝も大事ですから、テレビとか新聞・雑誌などでも宣伝やりますけれども、それ以上に力があるのは山形県民だと思ってます。だから県民の皆さんに、縁故米とおっしゃいましたけれども、知り合いの方々にご贈答で贈っていただくとか、赤ちゃんが生まれた時にお祝い事に使っていただくとか、それからお歳暮とかに使っていただいたり、お正月に家族が集まった時に食べていただいたり、いろんな使い方があると思うのです。例えば、ご意見者と私が、県外の５人10人に知らせて、贈ったとします。それが100人やれば100袋、ひとり10袋贈れば1,000袋と、ものすごい数になるんですね。ですから山形県民の皆さんの力、この時こそ、私は発揮していただきたいというふうに思っています。秋になって「つや姫」の新米が出たら、知り合いの方に是非、口コミも添えてですね、贈っていただいたりしたらありがたいなと思っていますので、素晴らしいご提案をいただきました。全く同じ考えですので、そこのところを、これからも取り組みさせていただきたいと思っています。どうもありがとうございます。

（司会）

ありがとうございました。それでは、他にご発言のある方お願いします。

【５　企業の求める人材育成について】

☆ある東京の企業の技術顧問をしている者です。私は昭和47年に、この白鷹町に東京の方から企業誘致の第１号の企業を立ち上げるために、昭和47年に、もう40年も前になりますが、一緒に参りました。当時は菊地町長さんでしたが、読売新聞に、東京の方にですね、非常に山形は人材豊富で、資源が豊富でいろんな資源がいっぱいあると、まあ要するに、そういうちょっかいが出た訳ですね。それにつられて、つられてというのも変ですね。それに乗っかっちゃって来ちゃったというか、来ちゃったというのも変ですね。私これから知事さんにお願いするのは人材についてちょっとお話をいただきたいと思うのですが、つまりその、何をするにしても資源が必要なんですよね。資源がなくて何かやろうと言っても無理でして、そこで人材も大きな資源なんですね。つまり人材なくして発展はないんですね。昔から「風が吹けば桶屋が儲かる」という言葉があるんですが、私は「人材豊富になればＧＤＰが上がる」というふうに感じております。ＧＤＰというのは付加価値のことなんですが、偉そうな事を言ってすいません。10年位前のバブルの頃は540兆円もあったんですね、日本は。でも今は１割５分から２割も下がっちゃって、460兆円位ですか、現在はね。そのぐらいＧＤＰが下がってしまった。つまり何で下がったかというと付加価値がどんどん落ちてしまったということなんですね。つまり開発企業がどんどんなくなっていっちゃうという、そういう現象なんですね。だから自然にＧＤＰが下がるという現象だと私は思うんですが。それから、人材

育成についてどうすればいいのか、ＩＳＯでも人材育成のプロセスが織り込まれているんですが、なかなか企業にとって人材育成までは手が届かないというのが現状ではなかろうかと思うんですが、そういうものを含めて人材育成をどうしたら成功できるかなと。先ほどから少子化という問題も大きな問題として出ているんですが、この「少子化」というのは人数が少ない訳ですよね。従って企業としてもね、小さな僅かな人材で何か、その利益を上げようとすれば、効率をやはり重んじなければいけない訳です。だから効率というものと人材育成、いろんな方針があろうかと思いますが、その辺について県として何かご提案があればいただきたいと思います。よろしくお願いします。

（司会）
お願いいたします。

（知事）
はい、白鷹町に企業としていらしていただいて本当にありがとうございます。町長さんと一緒に御礼を申し上げたいと思います。それで人材育成なのですが、一口では語れないくらい大変な課題も含んでいると私は思っております。ただ本当に最も重要な課題だと思っておりますので、私は就任当初から教育というものにも力を入れるというふうに申し上げてきました。そして今年になってから、「日ロ知事会議」に行ってきたのですが、ロシアという国をモスクワからウラジオストクまで飛んだ時に８時間かかったんですね。一つの国の中で８時間飛行機でかかる、そういう広大な土地を持つ国でした。眼下に広がったのはシベリア大地で、延々と針葉樹林と川が流れている、そういう景色があります。面積は日本の土地の45倍、人口が１億4,000万。日本が１億2,000万位ですから、人口的にあまり変わらないんだけれども、土地が45倍あるんですね。そういう国です。その広大なシベリア大地の地下に資源が眠っている訳ですね。具体的な資源です。石油とか石炭とか天然ガスとか、そういうものが眠っている、そういうものを掘り出して他国に売ればそれで繁栄していけるような、そういう資源大国と比べた時に、日本はどうやって相互協力したり競争したりして生きていけるんだろうと私は思わず、本当に考え込んでしまいました。やっぱりそこで大事なのは「人材育成」だというふうに思ったんですね。教育とか、科学立国とか、やはりそこだというふうに私は実感してきました。また、中国もロシアも私が話した方々は日本に求めているのは「技術力」でした。「技術力と投資」この二つなんですね。それを日本は求められています。ですからやはり、日本人としては本当に今まで通りしっかり教育というものに力を入れていくべきだと私は思っております。ご意見についての直接的なお答えにならないかもしれませんけれども、山形県の工業高校の普通高校に対する割合というのは全国で二番目に高い、そういう県です。工業高校と言いますとやはり産業にとっては非常に優位な人材を輩出する所でございます。また、卒業時までに技術資格を取るということも非常に奨励しておりまして、そういうところをやはり引き続きしっかりやっていかなければならないというふうに思っているところです。また、今、産業振興を図ることが求められておりまして、多様な技能、技術レベルの人材というものが求められております。これらに応えていくためには行政だけでなくて、各種教育研究機関等が相互に連携して協力し合っていくことが大事だと思っています。今年の２月に産学官が連携して「ものづくり」人材を育成するための指針としまして、「山形県次世代ものづくり人材育成プログラム」を策定いたしまして、人材の育成を図っているところでございます。人材の育成は本当に大事なところでございますので、これからも頑張っていきたいと思っております。総合支庁における取組みについてありましたらお願いします。

（産業経済部長）
産業経済部長でございます。私の方から置賜総合支庁で取組んでおります、特に「ものづくり人材の育成」の取組みについてご紹介させていただきたいと思います。

先ほど知事から、人材育成、教育研究機関との連携を図っていくことが重要だという話がございました。この置賜地方にはそういった意味では山形大学工学部、それから米沢女子短期大学という高等教育機関がございます。こういった所で持っておりますさまざまな知識のストック、スキル、そういったものを地場の企業の方々につないでいけないだろうか、そういった観点からこの両者を仲介するコーディネーターの方を配置いたしまして、高等教育機関と地場企業のマッチング対策も行っております。それから、ここ西置賜地域では、たくさんの地場企業の方々がものづくりの研修に取組んでいらっしゃいます。ものづくりの人材を輩出しております長井工業高校と連携し、ロボット技術の開発、ロボットコンテスト等は代表的な例だと思いますが、こういったロボット技術を使った形で農業分野との連携を図っていけないだろうかということで、例えば「田んぼの水張り」、こういったロボット技術を使った技術開発に対しまして私どもも支援させていただいております。また昨今の景気動向ですが、一部戻った企業もあるというふうな話もございますが、まだまだ厳しい状況が続いているというのが地域経済の現状でございます。社員の方々に休業を余儀なくさせているというような企業も多くございます。そういった休業の期間を社員の人材研修に役立てられないだろうかということで、企業がお休みいただいている社員の方々に対する研修を効果的に進めるお手伝いもさせていただいております。いずれにいたしましてもお話ありましたように、「人材なくして発展なし」というふうなことは私もその通りだと思います。付加価値を高めていく上で人材力をアップしていくというのは極めて重要な課題でございます。そういったことから、ここ「ものづくり」の集積地でございます置賜地域にあります県の行政機関としまして、今後ともこういった「ものづくり人材の育成」に力を注いでまいりたいというふうに考えてございますので、ご協力方よろしくお願いしたいと思います。

（知事）
是非、いろいろご提言いただければ大変ありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（続いて発言者）
今、企業がどんな人材が求められるかってなかなか難しいんですが、新聞記事にいっぱい出ているのは、「問題解決ができる人材」、つまり何か問題があった時にそれを掘り起こして、原因を追求して解決をする、方法を講じる、そういう能力のある人を求めている、そういうふうに私も思いますし、各社長さん方もおそらくその辺を危惧しているんじゃないかと思います。本当にこれから10年、20年先が非常に心配だという社長さんが非常に多いので、私も含めてなんですが、人材ってもちろん頭の良さとか、器用さとか、真面目とかね、元気の良さって、もちろん必要なんですが、それ以外に、要するに脳みそがどういうふうに働くかということですよね。ですからそういう教育の場があればね。もちろんスキルアップはしなきゃいけないんですが、私みたいに70歳過ぎますとね、スキルが云々というよりも、むしろ若い人達のそういう技術アップ、要するに脳みそのアップと言いますかね、考え方のアップができれば、お役に立てるところがあればというふうに思っております。ちなみに私も70歳過ぎて、まだ現役で技術顧問なんて偉そうな仕事をしています。技術顧問料、月に７万円貰っています。１回出張に行きますと５万円貰えるんですよね。でもなかなか企業さんは頭が良くなってね、電話で私が答えちゃうから、わざわざ来ることないよ、ということですね。だから固定給が７万円なんですが、いいかどうかわかりませんが、年金と７万円で今生活しています。

（知事）
いろいろ本当にありがとうございます。問題解決できる人材ということでご提言いただきましたので、またいろいろなご協力をいただきながら、そういう人材をまた育成したいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

（司会）
　ありがとうございました。それでは、他にご発言のある方？

【６　結婚難対策ついて】
　結婚相談員を仰せつかっております。先ほど人材育成の話があったんですが、昭和54年の時に板垣清一郎県知事さんの「青年洋上大学」という事業がございまして、第１期生でございます。白鷹から15名ほど参加した経緯がございます。今日の山形県の新聞記事に掲載がございましたが、６月の県内人口が1,172,140人という報道がございました。それで白鷹町も昭和29年の10月に１町５ヵ村が合併した時に、27,000人くらいいらっしゃったと聞いてございますが、過日、東根地区公民館で、今後第５次総合計画の中において、13,500人というような数字を提示してございました。２分の１、半分に減るというような実態でございます。そんな中で私は今結婚相談員ということで活動しているんですけれども、やはり人口増大については、出産もあるんですが、その前段取りの結婚という課題が一番人口問題についてはあるのではないかなと思っているところです。そんな中で当町白鷹におきましても、昭和53年から農業後継者の育成、さらには商工後継者の育成ということで、協議会を作り、さらに結婚相談所なども開設してございました。そして平成元年には、日本青年会館におきまして、首都圏の方々との交流会、あるいは、西暦2000年まで「わくわく自給村」ということで、白鷹町の男女の登録をしたりして、いろいろなイベントや企画をしてまいっておるんですけれども、何せ男子と女子の比率が２：１、女性の割合が少ない状況でございます。そういった中で是非、国でも、今、少子化の原因については、結婚難であるというお考えが、さらに県の方におかれましても、さまざまな施策をなさろうというふうなこともお聞きしております。是非吉村県知事さんのお考えをお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

（司会）
　知事、お願いいたします。

（知事）
　はい、どうもありがとうございます。少子化対策、本当に大事なことだと思っています。先般全国知事会が行われたんですけれども、その席上でも私はその事を申し上げてきました。「子ども手当」というと、子どもを育てる、そこだけに焦点を当てて、そこだけを切り取って、それがバラマキだ何だかんだと言われているんですけれども、日本の人口が、今、減っています。山形の人口ももちろん減っています。その現象を抑制するという意味での政策が絶対必要だと申し上げているんですが、まず今おっしゃったように、結婚から始めるべきだと、結婚応援ですね、「婚活」と言っているんですけれどもそれを支援する、社会全体で結婚を応援するということが大事だと思っています。そして結婚してから子育てというところですよね。その後教育費だとかいろんな保育所整備とか、女性も男性も働けるワークライフバランスというような環境整備というふうになっていくんだと思います。さらには、介護も社会全体で応援するということが必要だと思うんですが、とりあえず、人口減少のところだけ考えてみますと、まさしくその「結婚対策」から始めるべきだと、これは国策として力を入れるべきだということを私は知事会でも申し上げました。「ふるさと知事ネットワーク」というのを11県で作っているんですが、そこでも私は言っています。本当に、昔は仲人さんという方々がおられて、「あそこのお年頃の娘とこっちの年頃の息子がいるからちょっと会わせて」とかですね、いろいろとお世話を焼いたんですけれども、実はそういう方のおかげでちゃんと結婚というものが成立していたのかなと思うんですね。今そういう方が全然いなくなりました。それで危機感を持った方々が、結婚相談員ということをやっておられる方がちらりほらりと見られるようになりました。ＮＰＯ法人も出てきましたし、そういう活動に対して県では支援をしたいというふうに思っているところでございます。いろいろあって、

セクハラだとかパワハラだとか、個人情報、プライバシーとか、いろいろ複雑な事が出てきて、なかなかいろんな事を言えない時代になってきているというか、でもそれを何とかしないととても打開できないんじゃないかと私は思っているんですね。「あなた、結婚していますか？」って聞いて、「してない。」そこで終わっちゃったらこれはセクハラだそうなんですよ。だから「あらそう、独身なの。じゃ、いい人いるよ。」って紹介する。そこまでちゃんとやると「ああ、自分の事を心配して言ってくれているんだな。」と思って、セクハラじゃないらしいんですね。だから、お世話焼きならちゃんと責任持って世話を焼いた方がいいんじゃないかっていうふうに、私は思います。県庁にも独身者たくさんいます。白鷹町役場にもいるんじゃないかな。本当にたくさんいるんですよ。だからいろんな方々がやはりお世話焼きになってね、さりげなく世話を焼いてあげるのがいいんじゃないかなって。いかにもホテルみたいな所にきちんと着物着たり、服着たり、背広着たりして、そういうふうにセットされると、なかなか肩が凝って行きにくいと言いますか、それよりも、山形でしたら芋煮会みたいなイベントで、男性も女性も一緒になって立ち働いて、食べて、そうすると「あー、あの人以外と働くわ。」とか家事手伝ってもらえそうね。」とか、そういう具体的なことになると私は思うんですよね。だから、いろんな状況を演出して、社会全体で結婚というものを応援するような仕組みというか活動というか、そういうものをしていただきたいなと思っています。県では、もちろん「婚活」というふうに、就職活動を「就活」で、結婚活動を「婚活」と言うんですけれども、「結婚ポジティブキャンペーン」としまして、結婚さらには子育てに夢を持ってもらうためのセミナーを７月18日に開催して、結婚の機運醸成を図ったところです。200名ほど参加したそうでありますけれども、その後どうなったかなと思います。それぞれの市町村でやはり少子化が一番の課題じゃないかなと思って、昨年「子ども政策室」というのを知事直轄で作りまして、今年はさあ具体的な活動をやるぞということで、「子育て推進部」という部に移行したんですね。県庁で初めての女性部長さんがおりますけれども、そこでしっかり県民の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っているところです。是非町長さんにもお考えのほどをお聞きしたいと思います。

（町長）
　この問題と言いますか、結婚というよりは出会いの作り方というふうに私どもは考えております。たとえば白鷹町単独で何か事を起こしましょうと言いましてもなかなか難しいということで、過般なんですが、置賜の５町の高畠町・川西町・小国町・飯豊町・白鷹町が集まった時に、今一番一生懸命取組んでおられるのが高畠町さんで、いろんなチャンスを作られていると伺っていますので、みんなそれに乗ろうかと、そして連携を保ちながらやっていこうかというふうな話し合いが今始まったところであります。もう白鷹町だけ、あるいは隣のどこどこの市だけという事では、これは解決し得ない問題で、もっと広い眼で見ようや、というような取組みをやっていこうということが、ようやく見えてきた。それから南陽市さんもかなり一生懸命やっておられるというふうに伺っておりますので、じゃあ、南陽市さんも巻き込むかなんていうような話を、今、しているということで、いよいよ広く広域的な見地の中で「婚活」という話が始まったところです。活力ある地域づくりをしていくための一つの原点であります、両性の合意の元に結婚できますような機運を作るということに取組んでまいりたいと思っているところでございます。よろしくお願いします。

（司会）
　ありがとうございました。それでは他にご発言ある方、お願いします。

【７　住宅建設、特にリフォームに対する支援（参考　秋田県住宅リフォーム緊急支援事業）について】
【８　商工会への助成について】
　☆白鷹町商工会長を仰せつかっております。私の場合は特に小規模事業者の立場からいろ

んな今、緊急経済対策がらみをとっていただいております。そのことについては御礼を申し上げなければならないというふうに思いますが、特に最近、経済の支援の対策の中でそれぞれの市町村も含めてでありますが、特に本町の場合は、昨年からでありますが、住宅の新築並びに増改築、これについて地元業者に依頼をした場合に新築で50万、増改築で30万という給付金をいただける、そういう制度を作っていただきました。昨年ちょうど2,000万予算をつけていただきまして、71件、金額にしまして５億ちょっとの経済効果を上げていただきました。今年は1,600万ほどつけていただきましたが、すでに完了した状態であります。その住宅に対する、特にリフォームに関してでありますが、今国を挙げてリフォームを促進しているという状況であります。お隣の秋田県では、今回３月からリフォームについて10％の最高20万ということで３月から実施をされているということであります。是非山形県もそういう取組みをよろしくお願いしたいというのがまず１点であります。秋田県もそうでありますが、市町村と重複しても構わないという申込みのようでありますので、白鷹町長さんには引き続きまた補正をしていただいてですね、すでに今1,600万も終了しましたので、今日は議会の皆さんもおりますので、議員の皆さんからもしっかりとサポートしていただいて、そのことが非常に地域の経済に大きく刺激を与えていただいている、私はここが一番肝心なところだと思っています。国がらみで大きな支援はたくさんあるのですが、そういうものはどうしても限定されます。しかし私ども身近にそれぞれ本当に親子だったり、あるいは家内企業だったりして、大工さんやいろんな職人の方々いっぱいおりますが、今やっぱり仕事が無いという状況であります。しかしこういう採り入れをしていただきますと、即そういうものに結びつく、大きな効果が上がるという即戦力になりますので、県の方でも是非取組んでいただきたいというふうに思います。それからもう１点、これは私から申すのはどうかと思うのですが、商工会も冷たい県政の中で実は20％補助金カットをされました。それがちょうど５年間でありまして、今年で終了であります。その結果どうなったかと言いますと、大変な商工会の職員の削減ということになりまして、今本来ですとここで商工会がいろんな意味での経営支援や指導やサービスをしてなきゃならない立場でありますが、残念ながら今マンパワーが不足しているという状況であります。是非この事も来年度でありますので、よろしくご検討をお願いしたいと思います。以上です。

（司会）
知事、お願いいたします。

（知事）
はい、ありがとうございます。リフォームですけれども、それは確か県の方も少ししていたかと思います。特に県産材を扱った場合の補助、利子補給ですかね、業界の方のご意見を伺いながらやったところなんですけれども、そうですね、リフォームということでも、今どういうふうになっているのか、細かい所、総合支庁でちょっと説明してもらえますか。

（建設部長）
建設部長です。今、資料を持ってきていないので詳しい数字等はありませんけれども、先ほど知事が申しましたように、県産材を利用した等につきましては、利子補給、それ以外にも助成も結構あると思います。それにつきましては、置賜総合支庁の建築課、または本庁の建築住宅課の方にお問い合わせしていただければ、いろんな助成措置があると思いますので、よろしくご活用お願いしたいと思います。

（知事）
資料をお送りするとかお渡しするかしてご説明をしてください。それから商工会の補助金カットで大変な状況になってしまったという事を今お伺いしたところですけれども、そういうことを今日お伺いして受け止めさせていただきます。それで、それをこうするああすると

は今お答えできないんですけれども、また担当の者にお話を伺わせていただくかと思いますので、よろしくどうぞお願い致します。社会貢献したいんだとおっしゃって、婚活、結婚応援をするというようなことを、おっしゃっている商工会さんもあります。是非、そういうこともご協力いただければありがたいなというふうに思っております。やっぱりその若者達が、中年でもいいんですけれども、結婚して家庭を持ったりすることでいろんなやはり需要が出てきたり、経済も活性化するんですよね。そして人口が増えたりしますと、ますます社会が活性化しますので、本当に大事な事だと思います。10年後、20年後考えてどんどん人口減少していったら、物をまず買わなくなりますね。食べ物も買わなくなるし、服も売れなくなる、自動車も買わなくなる、家も建てなくなるで、大変な状況になってくるんですね。ですからその将来を見越してやはり「結婚応援」というのは、私は国全体でやらないと大変なことになるぞ、というふうに思っていますので、本当に県民の皆さんと一緒になってここを頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

（司会）
ありがとうございました。それでは他にご発言のある方？

【９　荒砥橋の架け替えについて】
私は荒砥第２区の区長をしております。よろしくお願いします。知事さんにご要望申し上げたい点は、荒砥橋の架け替えについてご発言させていただきたいと思います。ご承知のように地域の生活道路の重要な橋であることはもちろんでございまして、見ていますと大型車なんかは、橋の上で交換できないので、交互に通行しているというような状況です。狭いからということなんですが、その他、人の交流・物流に支障をきたしているということで早期に架け替えをしていただきたいとご要望申し上げたいと思います。どうぞよろしくお取り計らいのほどお願いします。

（司会）
知事お願いします。

（知事）
はい、どうもありがとうございます。本当にこの荒砥橋ね、選挙の時から、「荒砥橋と荒砥高校」っていうのは、白鷹町に来ると皆おっしゃるんです。何の用で来てもね、町長さんもそうだし、他の方も「荒砥橋と荒砥高校」、本当に私の中にすごいインプットされちゃって、就任してから「白鷹町って言ったら荒砥橋と荒砥高校だよな」って、そういうふうになってきていたんで、本当に結構うるさくしつこく言いました。本当にここはすごいお金がかかるということで「無理だよ、無理だよ。」とずっと言われていた経過がありまして、もちろん県、お金無いし、国も無いけど県も無いんですね。町も無いかもしれませんけど、本当にどこも大変な状況ではあるんですけれども、そして今長寿命化ということで、できるだけ長持ちさせて使おうという時代になっているんですが、「荒砥橋」っていうのが、ずっと県の方でしっかり協議させていただいてですね、古くなっている、そしてあの近辺では唯一の橋、そういうこともあり、またすれ違うのも普通車対普通車だと大丈夫なんだけど、大型車だとなかなか大変みたいな、今日も通ってきました。「ここだ」って言うことでね。それで、今年の３月末に山形県道路中期計画というものを策定いたしまして、その中で、新たに架け替える箇所というふうにしたところでございます。ただもちろんすぐすぐという訳にはいかないんです。ものすごく大変なお金がかかります。ですから時間はかかりますけれども、架け替えるという方向で進めてまいりたいと考えております。現在、架け替えのための測量・調査を行っておりまして、平成23年度まで実施することにしております。厳しい財政状況なんです。そして多額の費用を要する大規模事業なんですけれども、皆様方の安全・安心ということで整備を進めていくこととしております。今後とも町や地元の皆様のご意見を採り入

れながら着工へと向けて調整を進めて参りますのでご協力よろしくお願いいたします。本当に大変な事業になりますので、他にもいろんな補助金の要望等が出てくるかもしれませんけれども、荒砥橋やるからちょっと我慢してねということになるかもしれませんが、その辺は、皆さん本当に県の財政の中でものすごい枠を占める金額ですので、ご協力・ご理解をお願いしたいなというふうに思っております。

（司会）
ありがとうございました。それでは他にも発言のある方、お願いいたします。

【10　農業の６次産業化（総合産業化）に向けた支援について】
【11　知事の写真を使ったＰＲについて】
鮎貝のものです。よろしくお願いします。今日いただいた資料の９ページになります。総合産業化の推進とございますが、私ですが、ここ鮎貝にあります農事法人組織の中で農業をしております。それで自分達で農作物を生産し、自分達である程度販売もしておるというふうな中で、最近、６次産業化ですか、たとえば白鷹の町内の農作物を白鷹町の加工業者の方が加工して、商業の方が売るとか、農商工連携の部分ですね、そういう部分をかなり興味を持っておるんですが、この事業がその部分を含めてのものかどうかということで、県としてまた吉村知事さんとして、どのような支援を、たとえばコーディネーターとか、農商工を連携、同じテーブルに座らせていただける方のような人的支援とか、いろんな支援をいただかなければ、なかなか実現は難しいのかなというふうにも思うのですが、その辺の県なり知事さんのお考えなりをお聞かせいただければと思います。単純に言いまして、我々が作っている農産物を白鷹町内の方に加工していただいて、たとえば吉村知事さんに和服、着物を着ていただいて、パンフレットに載っていただいて、それが売れればすごいなというふうな単純な夢を見ておるんですが、その辺よろしくお願いいたします。

（司会）
知事、お願いいたします。

（知事）
はい、ありがとうございます。
そうですね。総合産業化って本当に大事な事だと思っております。「６次産業化」という言葉も使われておりまして、生産したものをそのまま売るよりは、付加価値を付けて加工したりして販売するという事の方が通年仕事がありますし、そこに雇用も創出できますので、町長さんもそういう方向で考えるというふうにおっしゃっていましたけれども、県全体でそのような方向に行きたいと思っているところでございます。具体的にどのような、県としての支援なのか、ということがございましたので、総合支庁の方から具体的な支援を説明してもらえますか？

（産業経済部長）
６次産業化、総合産業化とか、いろいろ言いますけれども、生産者の方が生産にとどまらず、そこに加工という部分を含めたり、それを販売したりとか、付加価値を付けながら販売していくというような、そういった取組みに対して県の方としても、いろんな支援をしております。たとえば、先ほどコーディネーターの配置というふうなお話もございましたが、そういった事をコーディネートする人材も、私ども総合支庁の方に「地産地消コーディネーター」というような形で配置しております。何かございましたら、どんどんご相談をいただきたいと思います。その他さまざまな６次産業化の支援事業がある中で、特にご紹介申し上げたいのが、「創意工夫プロジェクトの支援事業」でございます。これは知事が提唱いたします、農林水産業の「元気再生戦略」。産出額を増やしていこうじゃないかと、そのための後

押しをするというふうな形で、生産者の方が自ら考える「オーダーメイド型」の事業に対しまして、県はあまり細かい規則とか要綱とか決めないで、それを支援していこうじゃないかという「創意工夫プロジェクト支援事業」というのがございます。これは事業規模が200万円以上であれば、助成額に上限が無しというものでございまして、補助率３分の１となっています。それからもう１点は、「農商工連携ファンド」という事業がございます。これは農と商工とが連携して行う事業につきまして支援していこうじゃないかというふうなことでございます。これは補助率３分の２、助成金の限度額が300万円ということでございまして、ここ白鷹町の方でも、啓翁桜を海外に輸出しようという生産の方と、いわゆる企画会社の方が連携して輸出に取り組む事業も起きています。こういった農商工を連携するような支援事業が「農商工連携ファンド」というふうなものでございます。是非こういった事業を活用していただきまして、農産物の高付加価値化、総合産業化、６次産業化に取組んでいただければと思います。なお、詳しい事業について、メニュー等ございますので、先ほど申し上げましたコーディネーターにどうぞお問い合わせ等いただければ、なお、詳しいご説明をさせていただきたいと思います。

（知事）
　それから私の写真を使っての宣伝ということもおっしゃっていましたが、「つや姫」の写真・ポスターなどもありますけれども、県はお金が無いので女優さんを頼むと大変だと言うので、ただでできるのは知事だという考えのもとに、県職員が一生懸命考えて、「日本の心が残っているこの山形からおいしいものを皆さんに発信します」ということで「料亭やまがたの女将」というコンセプトで、県職員が考えたアイディアでございます。あの着物も着物屋さんから借りてきてですね、帯は職員のお茶を習っている人の帯を借りて、それで作ったものです。あれは「つや姫」の宣伝用なんですけれども、他にも写真を撮ってありますので、ＰＲにお使いになりたいということは大変ありがたいことで、嬉し恥ずかしのところもありますけれども、「おいしい山形推進機構」の方にご相談いただければＰＲに使える写真もあるそうでございます。

（司会）
　ありがとうございました。はい、お願いします。

【12　障がい者の工賃倍増計画について】
【13　障害者自立支援法見直しに向けた国への提案について】
　地元の知的障がい者授産施設に関わっている者です。民生委員も兼ねています。障がい者の自立支援の問題で、意見を申し上げたいと思うんですが、現在、自立支援法がいろんな点で問題になって、現政権では、それを総合的な制度に変えたいということを言っているようでありますけれども、現在抱えている問題を２、３申し上げて、是非県の後押しをお願いしたいということでお話をしたいと思います。一つは平成19年から始まった工賃倍増計画でございます。５年間で工賃を倍にしようという、そういう計画があるんですが、こういう世の中でなかなか受注もございませんで、少なくなっています。それから工賃も安くなっています。私の所は「こぶしの家」という施設なんですが、平成21年度の工賃は、１万200円です。月の工賃ですね、平均して、これは５年間で２万円にしようということで頑張ってきたのですが、なかなか目標達成は不可能の状況であります。幸いに町の方から福祉センターの清掃とか、花壇の管理とかそういう作業をいただいて、工賃アップに貢献させていただいております。そういうことで進んできているんですが、この５年間で工賃を倍にするという計画はなかなか難しいという現状にあるということをひとつご理解いただきたいと思います。それから第２点は、障がい者の所得保障をする上で、自立支援費が支給されている訳ですが、現在日額になっております。それを障がい者の所得を保障するという立場からすると、日額を月額に直していただきたい、変更していただきたいということを国に対してもいろいろな団

体で申し入れをしているんですが、是非この点についてもご理解をいただきたい、日額を月額にできるようにお願いしたい。それから第３点は、職員の配置基準でございます。私の所は、「こぶしの家」は、現在利用者7.5人に一人の職員というふうになっています。これを現在の障がい者自立支援法では、10人の利用者に一人の職員という、そういう配置基準で進めようとしているんです。これでは障がい者の自立を支援するには非常に難しい問題が多いということで、できれば利用者５人に一人の職員という配置を考えてもらえないか、考慮してもらえないかということで運動を進めているところでございますので、その辺についてもご理解を賜りたいというふうに思います。県では６月に国の施策に対する提案を出されていると聞いておりますけれども、その中で福祉の問題ではこういうこと、つまり障がい者の自立支援法の問題が出てこなかったかどうか、その辺も併せてお聞きできればなと思っているところです。以上です。

（司会）
知事、お願いいたします。

（知事）
はい、どうもありがとうございます。そうですね、自立支援法、見直しをするというふうに聞いております。それから私も新庄の作業所を見せていただいたりしたんですけれども、倍増計画、なかなか大変だというふうに聞きました。おっしゃるように、平成19年から23年までの５ヵ年計画、施設の皆さまは工夫をこらして頑張ってくださっているとお聞きしているところでございます。
ただ、「こぶしの家」さんのお話をお聞きしますと、町の方でも福祉のお掃除をお願いしたりとか、また南陽市の場合は市役所の食堂を障がい者の方々に依頼したりしているというようなこともお聞きしております。食べ物というのは、本当に私は、おいしいものは皆、買いますから、とてもいい事じゃないかと思っています。農業とか花とか、それからその料理したものを売るとかですね、そういうことも一つの方法だというふうに思っているところです。いろいろな工夫をしながらやはり本当に工賃が上がるようにしていただければいいなというふうに思っているところです。

（保健福祉環境部長）
保健福祉環境部長です。ただ今の制度的な面について、日額から月額というようなお話、それから職員の配置の基準の問題等々ありましたけれども、全体としての流れの中で決められている話でもございますし、またいわゆる人件費、経費の問題とかいろんなところも絡んでくると思いますので、全体的な話としてまずは受け止めさせていただいて、しっかり県全体の問題として相談をさせていただきたいなというふうに思っております。それからもう一つだけ、前段の部分のいわゆる工賃倍増５ヵ年計画のところで、置賜地域においても、「こぶしの家」さんの所長さんもお入りいただいた中で「置賜地域障がい者就労活動活性化協議会」を作らせていただいております。この中で昨年各管内の企業の方にアンケートを取らせていただいて、その中でも障がい者の雇用ということにご関心をお示しいただいている企業さんが、複数たくさんございました。今年度はまずその企業さんについて一つ一つ直接おじゃまをして、いろんなところをご説明させていただきながら、顔合わせ、究極的には一般就労、そこまでいかなくてもさまざまな受委託のお仕事をいただけないかというようなことについて、しっかりと取組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

（知事）
それから、国への提案・要望というお話があったんですけれども、後できちんと確認してからお知らせするようにしてください。

（司会）
はい、ありがとうございました。お願いいたします。

【14　山形県を支える若者の研修について】
☆知事さん、今日はお会いできて本当にありがとうございます。この町で酪農をしている者でございます。農業におかれましても、商工業におかれましても、金の卵と言われます、ほんの一握りの後継者の方々がおられますけれども、そういった方々に県の方の手厚い担い手育成というか、そういうふうな研修の場、私達も若い頃は素晴らしい県の方の指導で勉強させていただきました。そういった中でこれから高齢者時代に入っていきますので、今の素晴らしい後継者を、そういった勉強の場を支えていただいて、どんどん山形県の素晴らしい金の卵を育てていただいて、全国一の山形県になっていただきたいなと思います。知事さんも子どもさんもおられるようですので、そういった中で素晴らしい県の方の担い手育成というか、勉強会というか、いろいろ農業ばかりでなくて、産業・工業、いろいろな今後継者不足に入っている若い担い手さんをどんどん集めて勉強させていただきたいなと思っている一人でございます。よろしくお願いします。

（司会）
知事、お願いいたします。

（知事）
はい、ありがとうございます。
本当に本県の将来を担っていただきます、明日の人材と言いますか、今でももちろん社会を担っていただいていると思いますけれども、後継者育成は大事な事だと思っています。農業に限らず青少年交流というものを私は選挙中、「青年大学」というふうにずっと言っていたのですが、大学を作ってそこで学べということではなくて、昔の青年団というような、お互いに刺激し合って磨き合ってそしてそれぞれの地域に戻ってそこで地域のために働くというような人材、先ほどの洋上大学の話もありましたけれども、まさしく全県内から集まってきて、お互いに研修し合って育て合うと言いますか、その中でも結婚までいった方もいらっしゃると聞いていますし、いろんな意味で若者達が集まって研修するという場はとても大事だと思っています。青少年交流という事も始めています。それから今年は県内の青少年に応募してもらって、船で、わざと船なんですけれども、その中でいろんな討論をしたりいろんな事ができると思ったからなんですが、船で名古屋の方に行きまして、そこで県産品を売っていろんな反応を見たりですね、県のＰＲをしてもらったりして、いろんな勉強をしてもらうというような事も事業として上げております。今、本当に後継者という山形の明日を担う人達の育成ということに力を注いでいきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。